

平成15年 3月期 決算短信 (連結)

平成15年 5月22日

上場会社名 エンシュウ株式会社
 コード番号 6218
 (URL http://www.enshu.co.jp/)

上場取引所 東 名
 本社所在都道府県 静岡県
)

代表者 役職名 代表取締役社長
 問合せ先責任者 役職名 常務取締役 企画管理部統括
 氏名 千賀 伸一

氏名 寺田 一彦
 TEL (053) 447 - 2111

決算取締役会開催日 平成15年 5月22日

親会社名 (コード番号:) 親会社における当社の株式保有比率: %

米国会計基準採用の有無 無

1. 15年 3月期の連結業績 (平成14年 4月 1日 ~ 平成15年 3月31日)

(1) 連結経営成績

| | 売 上 高 | | 営 業 利 益 | | 経 常 利 益 | |
|---------|--------|------|---------|-------|---------|-------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 15年 3月期 | 30,230 | 13.2 | 557 | 104.8 | 161 | 189.0 |
| 14年 3月期 | 34,810 | 8.6 | 272 | - | 55 | - |

| | 当 期 純 利 益 | | 1 株 当 たり 当 期 純 利 益 | 潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 | 株 主 資 本 当 期 純 利 益 率 | 総 資 本 経 常 利 益 率 | 売 上 高 経 常 利 益 率 |
|---------|-----------|-------|-----------------------|-----------------------|------------------------|--------------------|--------------------|
| | 百万円 | % | 円 銭 | 円 銭 | % | % | % |
| 15年 3月期 | 103 | 796.8 | 2.16 | - | 1.8 | 0.5 | 0.5 |
| 14年 3月期 | 11 | - | 0.24 | - | 0.2 | 0.1 | 0.2 |

(注) 1. 持分法投資損益 15年 3月期 1百万円 14年 3月期 6百万円
 2. 期中平均株式数(連結) 15年 3月期 47,783,638株 14年 3月期 47,814,296株
 3. 会計処理方法の変更 無
 4. 売上高、営業利益、経常利益、当期純利益におけるパーセント表示は、対前期増減率

(2) 連結財政状態

| | 総 資 産 | 株 主 資 本 | 株 主 資 本 比 率 | 1 株 当 たり 株 主 資 本 |
|---------|--------|---------|-------------|------------------|
| | 百万円 | 百万円 | % | 円 銭 |
| 15年 3月期 | 34,213 | 5,739 | 16.8 | 120.18 |
| 14年 3月期 | 36,417 | 5,585 | 15.3 | 116.84 |

(注) 期末発行済株式数(連結) 15年 3月期 47,753,675株 14年 3月期 47,808,272株

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

| | 営 業 活 動 に よ る キャッシュ・フロー | 投 資 活 動 に よ る キャッシュ・フロー | 財 務 活 動 に よ る キャッシュ・フロー | 現金及び現金同等物 期 末 残 高 |
|---------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------|
| | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 百万円 |
| 15年 3月期 | 2,877 | 1,223 | 1,370 | 1,490 |
| 14年 3月期 | 1,351 | 1,095 | 278 | 1,220 |

(4) 連結範囲及び持分法の適用に関する事項

連結子会社数 2社 持分法適用非連結子会社数 0社 持分法適用関連会社数 1社

(5) 連結範囲及び持分法の適用の異動状況

連結(新規) 0社 (除外) 0社 持分法(新規) 0社 (除外) 0社

2. 16年 3月期の連結業績予想 (平成15年 4月 1日 ~ 平成16年 3月31日)

| | 売 上 高 | 経 常 利 益 | 当 期 純 利 益 |
|-------|--------|---------|-----------|
| | 百万円 | 百万円 | 百万円 |
| 中 間 期 | 16,000 | 200 | 50 |
| 通 期 | 30,500 | 400 | 200 |

(参考) 1株当たり予想当期純利益(通期) 4円19銭

上記予想は本資料発表時現在において、入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後の様々な要因によって大きく変動する可能性があります。業績予想の前提条件その他については、添付資料4頁をご参照ください。なお、数値は百万円未満を切捨表示しております。

企業集団の状況

当社の企業集団は、当社、子会社 4 社及び関連会社 1 社で構成され、工作機械並びに輸送機器関連部品の製造販売を主な事業内容とし、さらに各事業に関連するその他のサービス等の事業活動を展開しております。

当グループの事業に係わる位置付け及び事業の種類別セグメントとの関連は、次のとおりであります。

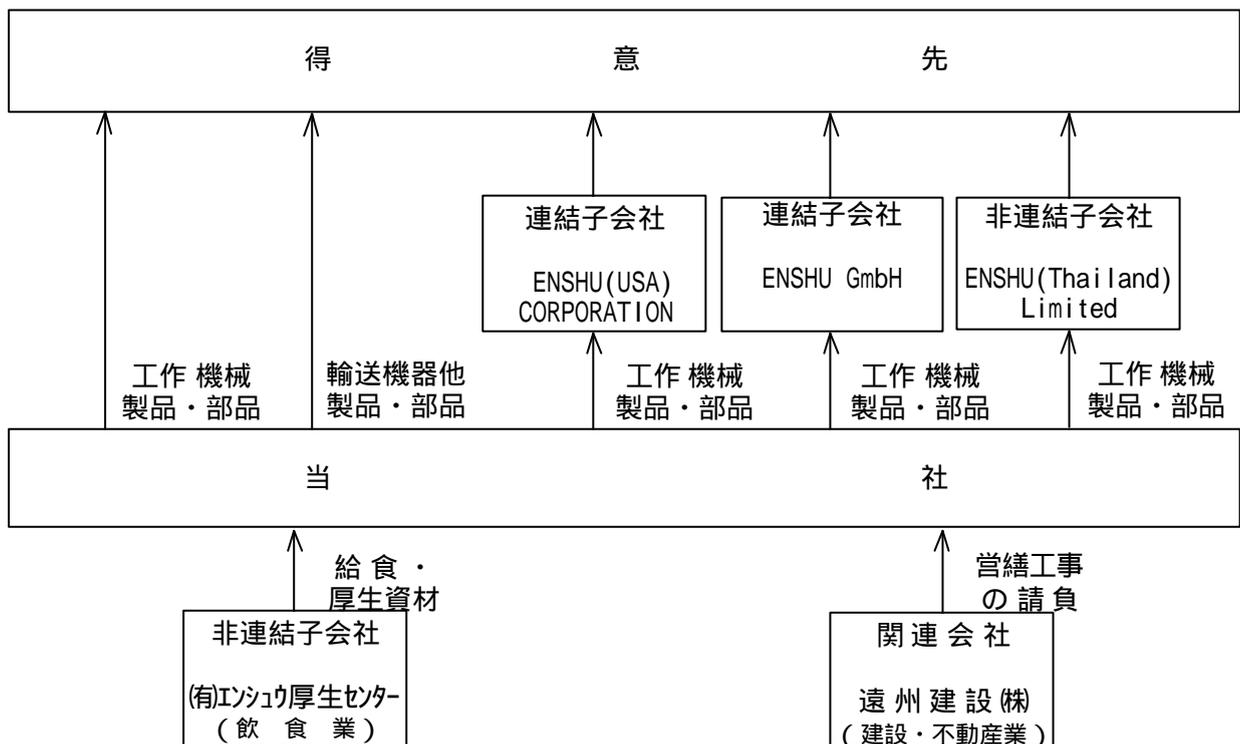
工作機械関連事業

当社が製造販売するほか、連結子会社 ENSHU(USA)CORPORATION、ENSHU GmbH 並びに非連結子会社 ENSHU(Thailand)Limited にて販売しております。

輸送機器他関連事業

当社にて輸送機器関連部品の受託加工を主に行っております。

事業の系統図は次のとおりであります。



(注) 関連会社、遠州建設(株)は持分法適用会社であります。

経 営 方 針

1．会社の経営の基本方針

当社は「品質絶対を基本としお客様第一主義に徹する」を企業ビジョンのキーワードとして掲げ、良い製品をより安く・より早く・グローバルに提供することにより、お客様にご満足していただき、収益を上げていくことを基本方針としております。そして、社会、株主、社員との共生共栄を経営理念といたしております。

2．会社の利益配分に関する基本方針

利益の維持・向上とその配分は、企業経営の最重要課題と認識しております。企業体質の強化を図りながら、業績と財務状態を勘案し、また今後の事業環境の変化に備える内部留保を確保しながら、安定的に継続して利益還元をしていくことを基本としております。

3．中長期的な会社の経営戦略

当社は、継続中の3ヵ年経営計画を再構築し平成15年4月より新たな3ヵ年経営計画としてスタートさせました。メーカーとして“モノづくり”の原点に戻り、徹底した改革を図っていくことを基本方針に掲げ、利益を創出して財務体質の強化を行い、新規事業の拡大を図ってまいります。

工作機械関連事業部門にあっては「技術による付加価値の創造」を目指し、システム商品の応用バリエーションを拡大するとともに、新製品開発ではリニアモーター駆動によるハイブリッド超高速横型マシニングセンタ、量産対応の高速横型マシニングセンタを開発し好評を得ております。また、異業種との新たな結びつきにより、光技術をコアとした新製品開発を軌道に乗せ収益化を目指してまいります。

輸送用機器他関連事業部門にあっては、新規事業の拡大のため、営業力の強化、工場の再構築を進めてまいります。また、品質・コスト・納期・V A・V Eの提案力を強化し、顧客の信頼を勝ち得て仕事量を確保すること、及びリードタイムの短縮・在庫の削減に努め、事業部門の体質改善に取り組んでまいります。

工作機械関連事業部門、輸送用機器他関連事業部門ともに厳しい経営環境が続くことが予想されております。モノづくりの強化（品質・納期・コスト）を推進するとともに、人材の育成・確保、環境対策、安全についても重要なテーマとして考え、お客様から信頼していただける製品作りに全社を上げて注力してまいります。また、既存事業に加え、他企業とのアライアンスや地元企業、大学との共同研究による新しい分野への展開についても継続して取り組んでまいります。

4．コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方及びその施策の実施状況

当社は、経営の透明性、コーポレートガバナンスの充実が求められるなか、経営環境の変化に迅速に対応できる組織体制と株主重視の公正な経営システムを構築・維持改善していくことを重要な経営課題の一つとして認識しております。

当社の取締役会は本年3月31日現在、6名の取締役（うち社外取締役1名）で構成され、原則として月1回開催し、重要事項の決定、業務執行状況の監督を行っております。監査役は4名（うち社外監査役2名）で社外監査役の導入により透明性の確保を図っております。また、会計監査は中央青山監査法人に委託して経営へのチェック機能とリスク管理の強化を図っております。当社としては、今後とも自社に最適なコーポレートガバナンスを目指し、企業価値の増大に取り組んでまいります。

経営成績及び財政状態

1．経営成績

当期のわが国経済は、国内のデフレ不況に加え米国経済の減速、株価の下落により低迷した状況が続きました。さらに国際情勢の緊迫化により、先行き不透明感が一段と強まり、また個人消費や設備投資も低調のまま、依然として厳しい経営環境の中で推移しました。

このような情勢の中で、当社は顧客ニーズに応え得る新製品開発・生産コストの削減を推進するとともに、国内外に積極的な販売活動を展開してまいりました。その結果、連結売上高は工作機械関連事業部門が低調に推移したことにより 30,230 百万円（対前期比 13.2%減）と減収となりましたが、損益面におきましては原価低減活動の浸透、また海外子会社在庫の削減による効果等もあり、連結経常利益 161 百万円（対前期比 189.0%増）、連結当期純利益 103 百万円（対前期比 796.8%増）となりました。

なお、当社の当期の配当につきましては、財務状態が十分でなく、誠に遺憾ながら見送りとさせていただきます。

事業部門別の概況は次のとおりであります。

工作機械関連事業部門におきましては、国内では、主要な顧客であります自動車業界の設備投資は堅調に推移し、一方、海外ではアジアが比較的好調でありましたが、米国・欧州は終始低調の状態が続きました。そのような中で、当社の強みであるシステム商品を中心に積極的な営業活動を展開し、自動車業界を中心に拡販に努めてまいりましたが、受注環境が厳しく売上は大幅に落ち込みました。この結果、当部門の売上高は 12,791 百万円（対前期比 33.9%減）となりました。

輸送機器他関連事業部門におきましては、パギー車用エンジン部品及び二輪車用エンジン部品の生産の増加により、当部門の売上高は 17,439 百万円（対前期比 12.7%増）となりました。

2. 連結キャッシュ・フローの状況

当期の営業活動により増加した資金は 2,877 百万円となりました。この主な要因は、売上債権及び棚卸資産の圧縮、並びに減価償却費、退職給付引当金によるものであります。また、投資活動による資金は主として輸送機器他関連事業部門の設備投資により 1,223 百万円減少し、財務活動による資金は借入金の返済等により 1,370 百万円減少しております。

以上の結果、当期末における現金及び現金同等物の残高は 1,490 百万円と前期末より 270 百万円増加しました。

3. 次期の見通し

今後の見通しにつきましては、米国での景気低迷の不安、また国内においては構造的なデフレ状況の中で経済の回復には時間がかかるものと思われ、引き続き厳しい経営環境が予想されます。

工作機械関連事業部門におきましては、急激な景気回復が見込めない状況のもとで、受注環境がさらに厳しくなることが予想されますが、システム商品を中心に顧客満足を実現する提案力を強化し、また低価格・高信頼性・短納期の顧客ニーズに合った商品の提供により、受注・売上の拡大を図ってまいります。また、新事業については、高出力半導体レーザー溶接機等の商品開発を軌道にのせ収益化を推し進めてまいります。

輸送機器他関連事業部門におきましては、海外自製化による仕事量の減少、競合のグローバル化等によるコスト競争の激化など環境は一層の厳しさを増しております。新規製品の取り入れのため営業力を強化すると共に、受け皿としての工場の再構築を前進させます。また、TPM活動をベースとした工場改善をさらに推進し、原価低減をより成果あるものとしてまいります。

このような背景を踏まえ、次期の業績見通しにつきましては、連結売上高は 30,500 百万円を、また損益面につきましては連結経常利益 400 百万円、連結当期純利益 200 百万円を見込んでおります。

比較連結貸借対照表

(単位：百万円未満切捨)

| 科 目 | 当連結会計年度 平成 15 年 3 月 31 日現在 | | 前連結会計年度 平成 14 年 3 月 31 日現在 | | 増 減 | |
|-----------|-------------------------------|-------|-------------------------------|-------|-------|-----|
| | 期 別 | 金 額 | 構成比 | 金 額 | | 構成比 |
| | (資 産 の 部) | % | % | % | | |
| 流 動 資 産 | 20,444 | 59.8 | 22,686 | 62.3 | 2,242 | |
| 現金及び預金 | 2,140 | | 1,870 | | 270 | |
| 受取手形及び売掛金 | 8,150 | | 9,725 | | 1,575 | |
| 有 価 証 券 | 107 | | 157 | | 50 | |
| たな卸資産 | 9,668 | | 10,605 | | 937 | |
| 繰延税金資産 | 256 | | 180 | | 76 | |
| そ の 他 | 144 | | 177 | | 32 | |
| 貸倒引当金 () | 23 | | 30 | | 6 | |
| 固 定 資 産 | 13,769 | 40.2 | 13,730 | 37.7 | 38 | |
| 有形固定資産 | 12,968 | 37.9 | 13,088 | 35.9 | 119 | |
| 建物及び構築物 | 1,905 | | 2,048 | | 143 | |
| 機械装置及び運搬具 | 4,257 | | 4,537 | | 279 | |
| 土 地 | 5,933 | | 5,933 | | - | |
| 建設仮勘定 | 534 | | 194 | | 340 | |
| そ の 他 | 337 | | 375 | | 37 | |
| 無形固定資産 | 34 | 0.1 | 17 | 0.1 | 16 | |
| 投資その他の資産 | 766 | 2.2 | 624 | 1.7 | 142 | |
| 投資有価証券 | 231 | | 268 | | 36 | |
| 繰延税金資産 | 323 | | 99 | | 223 | |
| そ の 他 | 232 | | 281 | | 48 | |
| 貸倒引当金 () | 21 | | 25 | | 3 | |
| 資 産 合 計 | 34,213 | 100.0 | 36,417 | 100.0 | 2,203 | |

(単位：百万円未満切捨)

| 科 目 | 期 別 | 当連結会計年度 平成 15 年 3 月 31 日現在 | | 前連結会計年度 平成 14 年 3 月 31 日現在 | | 増 減 |
|-----------------|-----|-------------------------------|-------|-------------------------------|-------|-------|
| | | 金 額 | 構成比 | 金 額 | 構成比 | |
| (負 債 の 部) | | | % | | % | |
| 流 動 負 債 | | 16,544 | 48.3 | 18,068 | 49.6 | 1,524 |
| 支払手形及び買掛金 | | 6,281 | | 7,295 | | 1,013 |
| 短期借入金 | | 8,570 | | 8,650 | | 79 |
| 未払法人税等 | | 277 | | 9 | | 267 |
| 賞与引当金 | | 380 | | 400 | | 20 |
| その他の他 | | 1,034 | | 1,713 | | 679 |
| 固 定 負 債 | | 11,930 | 34.9 | 12,763 | 35.1 | 832 |
| 長期借入金 | | 8,280 | | 9,566 | | 1,285 |
| 再評価に係る繰延税金負債 | | 2,146 | | 2,222 | | 75 |
| 退職給付引当金 | | 1,112 | | 568 | | 543 |
| その他の他 | | 390 | | 405 | | 14 |
| 負 債 合 計 | | 28,474 | 83.2 | 30,831 | 84.7 | 2,357 |
| (少 数 株 主 持 分) | | | | | | |
| 少 数 株 主 持 分 | | - | - | - | - | - |
| (資 本 の 部) | | | | | | |
| 資 本 金 | | 2,390 | 7.0 | 2,390 | 6.6 | - |
| 資 本 剰 余 金 | | 803 | 2.3 | 803 | 2.2 | - |
| 利 益 剰 余 金 | | 665 | 1.9 | 768 | 2.1 | 103 |
| 土地再評価差額金 | | 3,260 | 9.5 | 3,184 | 8.7 | 75 |
| その他有価証券評価差額金 | | 36 | 0.1 | 31 | 0.1 | 4 |
| 為替換算調整勘定 | | 8 | 0.0 | 8 | 0.0 | 16 |
| 自 己 株 式 | | 5 | 0.0 | 0 | 0.0 | 4 |
| 資 本 合 計 | | 5,739 | 16.8 | 5,585 | 15.3 | 153 |
| 負債、少数株主持分及び資本合計 | | 34,213 | 100.0 | 36,417 | 100.0 | 2,203 |

比較連結損益計算書

(単位：百万円未満切捨)

| 科目 | 期別 | 当連結会計年度 | | 前連結会計年度 | | 増減 |
|--------------|----|---------------|-------|---------------|-------|-------|
| | | 〔自平成14年4月1日〕 | | 〔自平成13年4月1日〕 | | |
| | | 〔至平成15年3月31日〕 | | 〔至平成14年3月31日〕 | | |
| | | 金額 | 比率 | 金額 | 比率 | |
| | | | % | | % | |
| 売上高 | | 30,230 | 100.0 | 34,810 | 100.0 | 4,579 |
| 売上原価 | | 27,270 | 90.2 | 31,613 | 90.8 | 4,342 |
| 売上総利益 | | 2,959 | 9.8 | 3,196 | 9.2 | 237 |
| 販売費及び一般管理費 | | 2,401 | 8.0 | 2,924 | 8.4 | 522 |
| 営業利益 | | 557 | 1.8 | 272 | 0.8 | 285 |
| 営業外収益 | | 130 | 0.4 | 285 | 0.8 | 154 |
| 受取利息及び配当金 | | 4 | | 8 | | 4 |
| 持分法による投資利益 | | 1 | | 6 | | 5 |
| その他の営業外収益 | | 125 | | 270 | | 144 |
| 営業外費用 | | 527 | 1.7 | 502 | 1.4 | 25 |
| 支払利息 | | 375 | | 405 | | 29 |
| 有価証券売却損 | | - | | 5 | | 5 |
| その他の営業外費用 | | 151 | | 91 | | 59 |
| 経常利益 | | 161 | 0.5 | 55 | 0.2 | 105 |
| 特別利益 | | 1 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 |
| 固定資産売却益 | | 1 | | 0 | | 1 |
| その他の特別利益 | | - | | 0 | | 0 |
| 特別損失 | | 83 | 0.3 | 54 | 0.2 | 28 |
| 固定資産廃棄損 | | 14 | | 5 | | 8 |
| 役員退職金 | | 52 | | 30 | | 22 |
| 投資有価証券評価損 | | 13 | | 13 | | 0 |
| その他の特別損失 | | 2 | | 4 | | 1 |
| 税金等調整前当期純利益 | | 79 | 0.2 | 1 | 0.0 | 77 |
| 法人税、住民税及び事業税 | | 274 | 0.9 | 9 | 0.0 | 265 |
| 法人税等調整額 | | 298 | 1.0 | 18 | 0.0 | 280 |
| 少数株主利益 | | - | - | - | - | - |
| 当期純利益 | | 103 | 0.3 | 11 | 0.0 | 91 |

比較連結剰余金計算書

(単位：百万円未満切捨)

| 期 別 | 当連結会計年度 〔自平成14年4月1日〕 〔至平成15年3月31日〕 | 前連結会計年度 〔自平成13年4月1日〕 〔至平成14年3月31日〕 | 増 減 |
|-------------|------------------------------------------|------------------------------------------|-----|
| (資本剰余金の部) | | | |
| . 資本剰余金期首残高 | 803 | 803 | - |
| . 資本剰余金期末残高 | 803 | 803 | - |
| (利益剰余金の部) | | | |
| . 利益剰余金期首残高 | 768 | 780 | 11 |
| . 利益剰余金増加高 | | | |
| 当期純利益 | 103 | 11 | 91 |
| . 利益剰余金期末残高 | 665 | 768 | 103 |

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円未満切捨)

| 科 目 | 期 別 | 当連結会計年度 | 前連結会計年度 |
|------------------|-----|-------------------------------|-------------------------------|
| | | 〔自平成14年4月1日〕 〔至平成15年3月31日〕 | 〔自平成13年4月1日〕 〔至平成14年3月31日〕 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | | | |
| 税金等調整前当期純利益 | | 79 | 1 |
| 減価償却費 | | 1,239 | 1,272 |
| 退職給付引当金の増加額 | | 543 | 200 |
| 賞与引当金の減少額 | | 20 | - |
| 貸倒引当金の増・減()額 | | 10 | 16 |
| 受取利息及び受取配当金 | | 4 | 8 |
| 支払利息 | | 375 | 405 |
| 為替差益 | | 0 | 2 |
| 持分法による投資利益 | | 1 | 6 |
| 有形固定資産売却益 | | 1 | 0 |
| 有形固定資産廃棄損 | | 14 | 5 |
| 投資有価証券評価損 | | 13 | 13 |
| 売上債権の減少額 | | 1,575 | 922 |
| たな卸資産の減少額 | | 937 | 910 |
| 仕入債務の減少額 | | 1,013 | 2,259 |
| その他の | | 470 | 287 |
| 小計 | | 3,257 | 1,758 |
| 利息及び配当金の受取額 | | 4 | 8 |
| 利息の支払額 | | 375 | 405 |
| 法人税等の支払額 | | 7 | 9 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | | 2,877 | 1,351 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | | | |
| 有価証券の取得による支出 | | 27 | 259 |
| 有価証券の売却による収入 | | 95 | 101 |
| 投資有価証券の売却による収入 | | - | 90 |
| 有形固定資産の取得による支出 | | 1,298 | 1,042 |
| 有形固定資産の売却による収入 | | 6 | 2 |
| 貸付金の回収による収入 | | - | 12 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | | 1,223 | 1,095 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | | | |
| 短期借入金による収入 | | 780 | 1,962 |
| 短期借入金の返済による支出 | | 1,516 | 1,708 |
| 長期借入金による収入 | | 2,190 | 2,650 |
| 長期借入金の返済による支出 | | 2,818 | 3,181 |
| 自己株式の取得による支出 | | 4 | 0 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | | 1,370 | 278 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | | 14 | 72 |
| 現金及び現金同等物の増加額 | | 270 | 50 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | | 1,220 | 1,169 |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | | 1,490 | 1,220 |

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 2社

連結子会社名 ENSHU(USA)CORPORATION ENSHU GmbH

(2) 主要な非連結子会社の名称等

ENSHU(Thailand)Limited

(連結の範囲から除いた理由)

非連結子会社2社はいずれも小規模であり、合計の総資産、売上高、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等はいずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないためであります。

2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法適用の関連会社 1社

関連会社名 遠州建設(株)

(2) 持分法を適用していない非連結子会社は、当期純損益及び利益剰余金等に与える影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため持分法の適用範囲より除外しております。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社2社の決算日は12月31日であります。連結財務諸表の作成にあたっては、同日現在の財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については連結上必要な調整を行っております。

4. 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

その他有価証券

時価のあるもの... 決算期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は、全部資本直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定)によっております。

時価のないもの... 移動平均法による原価法によっております。

デリバティブ..... 時価法によっております。

たな卸資産..... 工作機械製品及び仕掛品は個別法による原価法、その他のたな卸資産は主として総平均法による原価法によっております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産..... 当社においては主として定率法によっております。ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属を除く)については定額法で行ない、取得価額10万円以上20万円未満の資産については、3年間で均等償却する方法を採用しております。在外連結子会社においては主として定額法を採用しております

無形固定資産..... 定額法によっております。

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金..... 債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込み額を計上しております。

賞与引当金..... 当社においては従業員賞与の支払に充てるため、会社基準(支払予定額)による要支給額を引当てております。

退職給付引当金... 当社においては従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。なお、会計基準変更時差異に係る金額については15年による按分額を費用処理しております。また、過去勤務債務については15年による定額法により処理し、数理計算上の差異については15年による定額法によりそれぞれ発生翌連結会計年度より費用処理することとしております。

(4) 重要なリース取引の処理方法

当社においては、リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

(5) 重要なヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法..... 繰延ヘッジ及び金利スワップの特例処理

ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段..... 金利スワップ

ヘッジ対象..... 長期借入金

ヘッジ方針..... 長期運転資金の金利を固定化するためのものであります。

ヘッジ有効性評価の方法... ヘッジ開始から有効性判定時点までの期間におけるヘッジ対象及びヘッジ手段の相場変動またはキャッシュ・フロー変動の累計額等を基礎として判断しております。

(6) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。

自己株式及び法定準備金取崩等に関する会計基準

当連結会計年度より「企業会計基準第1号 自己株式及び法定準備金の取崩等に関する会計基準」(平成14年2月21日 企業会計基準委員会)を適用しております。この変更に伴う当連結会計年度の損益に与える影響はありません。

なお、連結財務諸表規則の改正により、当連結会計年度における連結貸借対照表の資本の部及び連結剰余金計算書については、改正後の連結財務諸表規則により作成しております。また、前連結会計年度につきましても、この変更に伴い組替えて掲記しております。

1株当たり当期純利益に関する会計基準等

当連結会計年度より「1株当たり当期純利益に関する会計基準」(企業会計基準委員会 平成14年9月25日 企業会計基準第2号)及び「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準委員会 平成14年9月25日 企業会計基準適用指針第4号)を適用しております。

5. 連結子会社の資産及び負債の評価に関する事項

連結子会社の資産及び負債の評価方法は、全面時価評価法によっております。

6. 連結調整勘定の償却に関する事項

連結調整勘定は、原則として5年間で均等償却しております。

7. 利益処分項目等の取扱いに関する事項

連結剰余金計算書は、連結会社の利益処分について連結会計年度中に確定した利益処分に基いて作成しております。

8. 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金及び随時引出し可能または取得日から3ヶ月以内に満期日の到来する預金よりなっております。

注 記 事 項

1. 連結貸借対照表に関する事項

| | 当連結会計年度 | 前連結会計年度 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|------------|
| (1) 有形固定資産減価償却累計額 | 21,923 百万円 | 21,017 百万円 |
| (2) 担保に供している資産 | 9,113 百万円 | 9,546 百万円 |
| (3) 受取手形割引高 | 340 百万円 | 2,649 百万円 |
| (4) 保証債務 | 192 百万円 | 212 百万円 |
| (5) 自己株式数(普通株式) | 63,325 株 | 8,728 株 |
| (6) 土地の再評価に関する法律の一部を改正する法律(平成13年3月31日公布法律第19号)に基づき、事業用の土地の再評価を行い、当該再評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として資本の部に計上しております。 | | |

再評価の方法

土地の再評価に関する法律施行令(平成10年3月31日公布政令第119号)第2条第3号及び同条第4号に定める算出方法に基づき、時価を算出しております。

再評価を行った年月日 平成13年3月31日

再評価を行った事業用の土地の当連結会計年度末における時価と再評価後の帳簿価額との差額は 989 百万円であります。

2. 連結損益計算書に関する事項

| | 当連結会計年度 | 前連結会計年度 |
|-----------------------------|---------|---------|
| (1) 販売費及び一般管理費のうち、主要な費目及び金額 | | |
| 運賃荷造費 | 163 百万円 | 297 百万円 |
| 旅費及び交通費 | 137 百万円 | 167 百万円 |
| 給料及び賞与 | 720 百万円 | 795 百万円 |
| 減価償却費 | 98 百万円 | 102 百万円 |
| (2) 当期製造費用に含まれる研究開発費 | 289 百万円 | 53 百万円 |

3. 連結キャッシュ・フローに関する事項

現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に記載されている科目の金額との関係

| | 当連結会計年度 | 前連結会計年度 |
|------------------|------------------|------------------|
| 現金及び預金勘定 | 2,140 百万円 | 1,870 百万円 |
| 預入期間が3ヶ月を超える定期預金 | <u>650 百万円</u> | <u>650 百万円</u> |
| 現金及び現金同等物 | <u>1,490 百万円</u> | <u>1,220 百万円</u> |

4. リース取引に関する事項

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引

(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

| | | 当連結会計年度 | 前連結会計年度 |
|------------|--------|---------|---------|
| 取得価額相当額 | 機械装置 | 455 百万円 | 451 百万円 |
| | 工具器具備品 | 347 百万円 | 499 百万円 |
| | その他 | 17 百万円 | 23 百万円 |
| | 計 | 819 百万円 | 973 百万円 |
| 減価償却累計額相当額 | 機械装置 | 224 百万円 | 158 百万円 |
| | 工具器具備品 | 216 百万円 | 318 百万円 |
| | その他 | 15 百万円 | 17 百万円 |
| | 計 | 456 百万円 | 495 百万円 |
| 期末残高相当額 | 機械装置 | 231 百万円 | 292 百万円 |
| | 工具器具備品 | 130 百万円 | 180 百万円 |
| | その他 | 1 百万円 | 6 百万円 |
| | 計 | 363 百万円 | 478 百万円 |

なお、上記取得価額相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法によっております。

(2) 未経過リース料期末残高相当額

| | 当連結会計年度 | 前連結会計年度 |
|------|---------|---------|
| 1年以内 | 119百万円 | 148百万円 |
| 1年超 | 244百万円 | 330百万円 |
| 合計 | 363百万円 | 478百万円 |

なお、上記未経過リース料期末残高相当額の算定は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法によっております。

(3) 支払リース料、減価償却費相当額

| | 当連結会計年度 | 前連結会計年度 |
|----------|---------|---------|
| 支払リース料 | 152百万円 | 180百万円 |
| 減価償却費相当額 | 152百万円 | 180百万円 |

(4) 減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価格を零とする定額法によっております。

オペレーティング・リース取引
未経過リース料

| | 当連結会計年度 | 前連結会計年度 |
|------|---------|---------|
| 1年以内 | 14百万円 | 28百万円 |
| 1年超 | 1百万円 | 15百万円 |
| 合計 | 16百万円 | 43百万円 |

5. 有価証券関係

当連結会計年度（平成15年3月31日現在）

(1) その他有価証券で時価のあるもの

（単位：百万円未満切捨）

| 区分 | 取得原価 | 連結貸借対照表計上額 | 差額 |
|------------------------|------|------------|----|
| 連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの | | | |
| 株式 | 7 | 8 | 0 |
| 小計 | 7 | 8 | 0 |
| 連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの | | | |
| 株式 | 24 | 15 | 9 |
| 債券 | 20 | 17 | 2 |
| その他 | 20 | 17 | 3 |
| 小計 | 66 | 50 | 15 |
| 合計 | 73 | 58 | 15 |

(2) 時価評価されていない主な有価証券の内容

（単位：百万円未満切捨）

| 区分 | 連結貸借対照表計上額 |
|------------------|------------|
| その他有価証券 | |
| 非上場株式（店頭売買株式を除く） | 130 |
| MMF | 89 |
| 合計 | 219 |

(3) その他有価証券のうち満期があるものの今後の償還予定額

（単位：百万円未満切捨）

| 区分 | 1年以内 | 1年超5年以内 | 5年超10年以内 | 10年超 |
|--------|------|---------|----------|------|
| 1. 債券 | | | | |
| 社債 | 17 | - | - | - |
| 2. その他 | | | | |
| 投資信託 | - | 3 | 2 | - |
| 合計 | 17 | 3 | 2 | - |

前連結会計年度（平成14年3月31日現在）

(1) その他有価証券で時価のあるもの (単位：百万円未満切捨)

| 区 分 | 取 得 原 価 | 連結貸借対照表計上額 | 差 額 |
|----------------------------|---------|------------|-----|
| 連結貸借対照表計上額が取得 原価を超えるもの | | | |
| 株式 | 6 | 6 | 0 |
| 小 計 | 6 | 6 | 0 |
| 連結貸借対照表計上額が取得 原価を超えないもの | | | |
| 株式 | 28 | 22 | 6 |
| 債券 | 20 | 17 | 3 |
| その他 | 32 | 22 | 9 |
| 小 計 | 81 | 62 | 18 |
| 合 計 | 87 | 69 | 17 |

(2) 時価評価されていない主な有価証券の内容 (単位：百万円未満切捨)

| 区 分 | 連結貸借対照表計上額 |
|------------------|------------|
| その他有価証券 | |
| 非上場株式（店頭売買株式を除く） | 139 |
| MMF | 157 |
| 合 計 | 297 |

(3) その他有価証券のうち満期があるものの今後の償還予定額 (単位：百万円未満切捨)

| 区 分 | 1 年 以 内 | 1年超5年以内 | 5年超10年以内 | 10年 超 |
|--------|---------|---------|----------|-------|
| 1. 債券 | | | | |
| 社債 | - | 17 | - | - |
| 2. その他 | | | | |
| 投資信託 | - | 4 | 3 | - |
| 合 計 | - | 21 | 3 | - |

6. デリバティブ取引関係

ヘッジ会計の適用により、該当事項はありません。

7. 退職給付関係

(1) 採用している退職給付制度の概要

当社は確定給付型の制度として、厚生年金基金制度、適格退職年金制度及び退職一時金制度を設けております。

(2) 退職給付債務に関する事項

| | 当連結会計年度 | 前連結会計年度 |
|--------------------------|------------|------------|
| イ. 退職給付債務 | 17,269 百万円 | 15,852 百万円 |
| ロ. 年金資産（時価） | 7,144 百万円 | 8,245 百万円 |
| ハ. 未積立退職給付債務（イ+ロ） | 10,124 百万円 | 7,606 百万円 |
| ニ. 未認識過去勤務債務 | 1,553 百万円 | 1,673 百万円 |
| ホ. 未認識数理計算上の差異 | 6,871 百万円 | 4,708 百万円 |
| ヘ. 会計基準変更時差異の未処理額 | 3,695 百万円 | 4,002 百万円 |
| ト. 連結貸借対照表計上額純額（ハ+ニ+ホ+ヘ） | 1,112 百万円 | 568 百万円 |
| チ. 前払年金費用 | - 百万円 | - 百万円 |
| リ. 退職給付引当金（ト-チ） | 1,112 百万円 | 568 百万円 |

(3) 退職給付費用の内訳

| | 当連結会計年度 | 前連結会計年度 |
|-----------------|------------------|----------------|
| イ．勤務費用 | 345 百万円 | 280 百万円 |
| ロ．利息費用 | 475 百万円 | 548 百万円 |
| ハ．期待運用収益 | 329 百万円 | 480 百万円 |
| ニ．過去勤務債務の費用処理額 | 119 百万円 | 119 百万円 |
| ホ．数理計算上の差異費用処理額 | 323 百万円 | 138 百万円 |
| ヘ．会計基準変更時差異処理額 | 307 百万円 | 307 百万円 |
| ト．退職給付費用 | <u>1,003 百万円</u> | <u>673 百万円</u> |

(4) 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

| | 当連結会計年度 | 前連結会計年度 |
|------------------|---------|---------|
| イ．割引率 | 2.5 % | 3.0 % |
| ロ．期待運用収益率 | 4.0 % | 4.0 % |
| ハ．退職給付見込額の期間配分方法 | 期間定額基準 | 期間定額基準 |
| ニ．過去勤務債務の処理年数 | 15 年 | 15 年 |
| ホ．数理計算上の差異の処理年数 | 15 年 | 15 年 |
| ヘ．会計基準変更時差異の処理年数 | 15 年 | 15 年 |

8 . 税効果関係

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳は次のとおりであります。

| | 当連結会計年度 | 前連結会計年度 |
|--------------|----------------|----------------|
| 繰 延 税 金 資 産 | | |
| 退職給付引当金 | 242 百万円 | 27 百万円 |
| 賞与引当金限度超過額 | 130 百万円 | 114 百万円 |
| たな卸資産有税評価減 | 64 百万円 | 66 百万円 |
| 有価証券評価損 | 33 百万円 | 29 百万円 |
| 未払事業税 | 24 百万円 | - 百万円 |
| その他有価証券評価差額金 | 23 百万円 | 22 百万円 |
| たな卸資産未実現利益 | 23 百万円 | - 百万円 |
| そ の 他 | 38 百万円 | 20 百万円 |
| 繰延税金資産合計 | <u>581 百万円</u> | <u>280 百万円</u> |
| 繰 延 税 金 負 債 | | |
| 貸倒引当金調整 | 1 百万円 | 1 百万円 |
| 繰延税金負債合計 | <u>1 百万円</u> | <u>1 百万円</u> |
| 繰延税金資産の純額 | <u>580 百万円</u> | <u>279 百万円</u> |

セグメント情報

1. 事業の種類別セグメント情報

当連結会計年度（自平成14年4月1日 至 平成15年3月31日）

（単位：百万円未満切捨）

| | 工作機械 関連事業 | 輸送機器他 関連事業 | 計 | 消 去 又は全社 | 連 結 |
|---------------------------|--------------|---------------|--------|-------------|--------|
| 売上高及び営業利益 | | | | | |
| 売 上 高 | | | | | |
| (1) 外部顧客に対する売上高 | 12,791 | 17,439 | 30,230 | - | 30,230 |
| (2) セグメント間の内部売上 高又は振替高 | 307 | - | 307 | (307) | - |
| 計 | 13,098 | 17,439 | 30,537 | (307) | 30,230 |
| 営 業 費 用 | 13,027 | 16,917 | 29,945 | (272) | 29,672 |
| 営 業 利 益 | 71 | 521 | 592 | (35) | 557 |
| 資産、減価償却費及び資本 的支出 | | | | | |
| 資 産 | 20,542 | 11,043 | 31,585 | 2,627 | 34,213 |
| 減 価 償 却 費 | 338 | 912 | 1,250 | (11) | 1,239 |
| 資 本 的 支 出 | 102 | 814 | 916 | (99) | 817 |

前連結会計年度（自平成13年4月1日 至 平成14年3月31日）

（単位：百万円未満切捨）

| | 工作機械 関連事業 | 輸送機器他 関連事業 | 計 | 消 去 又は全社 | 連 結 |
|---------------------------|--------------|---------------|--------|-------------|--------|
| 売上高及び営業利益 | | | | | |
| 売 上 高 | | | | | |
| (1) 外部顧客に対する売上高 | 19,336 | 15,473 | 34,810 | - | 34,810 |
| (2) セグメント間の内部売上 高又は振替高 | 218 | - | 218 | (218) | - |
| 計 | 19,555 | 15,473 | 35,028 | (218) | 34,810 |
| 営 業 費 用 | 19,541 | 15,189 | 34,730 | (192) | 34,537 |
| 営 業 利 益 | 14 | 283 | 298 | (25) | 272 |
| 資産、減価償却費及び資本 的支出 | | | | | |
| 資 産 | 23,576 | 10,640 | 34,216 | 2,200 | 36,417 |
| 減 価 償 却 費 | 374 | 897 | 1,272 | - | 1,272 |
| 資 本 的 支 出 | 451 | 639 | 1,091 | - | 1,091 |

(注) 1. 事業の区分は、製品の種類・性質によっております。

2. 各区分の主な製品

(1) 工作機械関連事業 フレキシブルトランスファーマシン&ライン、各種専用機、マシニングセンタ、NCフライス盤

(2) 輸送機器他関連事業 二輪車用エンジン、雪上車、ゴルフカー及びバギー車の部品加工、船舶用エンジンの加工組立、自動車用部品の加工

3. 営業費用はすべて各セグメントに賦課しており、配賦不能営業費用はありません。

4. 資産のうち消去又は全社の項目に含めた全社資産の金額は当連結会計年度2,793百万円、前連結会計年度2,200百万円であり、その主なものは当社での余資運用資金（現金及び投資有価証券）及び管理部門に係る資産等であります。

2. 所在地別セグメント情報

当連結会計年度（自平成14年4月1日至平成15年3月31日）

（単位：百万円未満切捨）

| | 日 本 | 日本以外の 地 域 | 計 | 消 去 又は全社 | 連 結 |
|-----------------------|--------|--------------|--------|-------------|--------|
| 売上高及び営業利益 | | | | | |
| 売 上 高 | | | | | |
| (1) 外部顧客に対する売上高 | 27,488 | 2,741 | 30,230 | - | 30,230 |
| (2) セグメント間の内部売上高又は振替高 | 1,599 | 175 | 1,774 | (1,774) | - |
| 計 | 29,088 | 2,916 | 32,005 | (1,774) | 30,230 |
| 営 業 費 用 | 28,588 | 2,992 | 31,580 | (1,907) | 29,672 |
| 営 業 利 益 | 499 | 75 | 424 | 132 | 557 |
| 資 産 | 30,836 | 3,876 | 34,712 | (498) | 34,213 |

前連結会計年度（自平成13年4月1日至平成14年3月31日）

（単位：百万円未満切捨）

| | 日 本 | 日本以外の 地 域 | 計 | 消 去 又は全社 | 連 結 |
|-----------------------|--------|--------------|--------|-------------|--------|
| 売上高及び営業利益 | | | | | |
| 売 上 高 | | | | | |
| (1) 外部顧客に対する売上高 | 30,559 | 4,250 | 34,810 | - | 34,810 |
| (2) セグメント間の内部売上高又は振替高 | 2,495 | 453 | 2,949 | (2,949) | - |
| 計 | 33,055 | 4,703 | 37,759 | (2,949) | 34,810 |
| 営 業 費 用 | 32,761 | 4,687 | 37,448 | (2,911) | 34,537 |
| 営 業 利 益 | 294 | 16 | 310 | (38) | 272 |
| 資 産 | 32,665 | 5,114 | 37,780 | (1,362) | 36,417 |

- (注) 1. 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。
 2. 本邦以外の区分に属する国又は地域
 アメリカ、ドイツ
 3. 資産のうち消去又は全社の項目に含めた全社資産の金額は当連結会計年度2,793百万円、前連結会計年度2,200百万円であり、その主なものは当社での余資運用資金（現金及び投資有価証券）及び管理部門に係る資産等であります。

3. 海外売上高

当連結会計年度（自平成14年4月1日至平成15年3月31日）

（単位：百万円未満切捨）

| | 北 米 | ア ジ ア | その他の地域 | 計 |
|--------------------------|-------|-------|--------|--------|
| 海外売上高 | 2,807 | 1,581 | 2,323 | 6,712 |
| 連結売上高 | | | | 30,230 |
| 連結売上高に占める海外 売上高の割合（%） | 9.3 | 5.2 | 7.7 | 22.2 |

- (注) 1. 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。
 2. 各区分に属する主な国又は地域
 (1) 北 米 アメリカ
 (2) ア ジ ア タイ、中国
 (3) その他の地域 オーストラリア、イタリア
 3. 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦地域以外の国又は地域における売上高であります。

前連結会計年度（自平成13年4月1日至平成14年3月31日）

（単位：百万円未満切捨）

| | 北 米 | ア ジ ア | その他の地域 | 計 |
|----------------------|-------|-------|--------|--------|
| 海外売上高 | 3,271 | 994 | 1,391 | 5,657 |
| 連結売上高 | | | | 34,810 |
| 連結売上高に占める海外売上高の割合（％） | 9.4 | 2.9 | 4.0 | 16.3 |

- （注） 1．国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。
 2．各区分に属する主な国又は地域
 (1) 北 米 …… アメリカ
 (2) ア ジ ア …… 韓国、中国
 (3) その他の地域 …… ドイツ、イタリア
 3．海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦地域以外の国又は地域における売上高であります。

関連当事者との取引

当連結会計年度（自平成14年4月1日至平成15年3月31日）

（1）親会社及び法人主要株主等

（単位：百万円未満切捨）

| 属性 | 会社等の名称 | 住所 | 資本金又は出資金 | 事業の内容又は職業 | 議決権等の被所有割合 | 関係内容 | | 取引の内容 | 取引金額 | 科目 | 期末残高 |
|---------------|---------|--------|----------|-----------|--------------------------|-------|-------------------|--------|--------|-----|-------|
| | | | | | | 役員兼任等 | 事業上の関係 | | | | |
| 主要株主 (会社等) | ヤマハ発動機㈱ | 静岡県磐田市 | 23,251 | 二輪車製造 | 直接 10.23% 間接 0% | なし | 二輪車用エンジンの部品等の受託加工 | 受託加工 | 13,439 | 売掛金 | 2,255 |
| | | | | | | | | 原材料の仕入 | 7,911 | 買掛金 | 1,317 |

取引条件ないし取引条件の決定方針等

受託加工及び原材料の仕入については、市場価格、総原価を勘案して価格交渉のうえ、一般的取引条件と同様に決定しております。

なお、上記取引金額には消費税等は含まれておりません。

（2）兄弟会社等

（単位：百万円未満切捨）

| 属性 | 会社等の名称 | 住所 | 資本金又は出資金 | 事業の内容又は職業 | 議決権等の被所有割合 | 関係内容 | | 取引の内容 | 取引金額 | 科目 | 期末残高 |
|-------------------------------------|---------|--------|----------|-----------|------------|-------|------------------|--------|-------|-----|------|
| | | | | | | 役員兼任等 | 事業上の関係 | | | | |
| 主要株主 (会社等) が議決権の過半数を所有している会社等 | ヤマハマリン㈱ | 静岡県浜松市 | 664 | 船舶機製造 | 0% | なし | 船舶用エンジンの受託加工及び組立 | 受託加工 | 3,192 | 売掛金 | 748 |
| | | | | | | | | 原材料の仕入 | 2,284 | 買掛金 | 495 |

取引条件ないし取引条件の決定方針等

受託加工及び原材料の仕入については、市場価格、総原価を勘案して価格交渉のうえ、一般的取引条件と同様に決定しております。

なお、上記取引金額には消費税等は含まれておりません。

生産、受注及び販売の状況

当連結会計年度及び前連結会計年度における生産、受注及び販売の状況を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

(1) 生産実績

(単位：百万円未満切捨)

| 事業の種類別セグメントの名称 | 当連結会計年度 | 前連結会計年度 |
|----------------|---------|---------|
| 工作機械関連事業 | 11,255 | 17,891 |
| 輸送機器他関連事業 | 17,354 | 15,377 |
| 合 計 | 28,610 | 33,269 |

- (注) 1. 金額は、販売価格によっております。
2. 消費税等は含んでおりません。

(2) 受注実績

(単位：百万円未満切捨)

| 事業の種類別セグメントの名称 | 当連結会計年度 | | 前連結会計年度 | |
|----------------|---------|--------|---------|--------|
| | 受注高 | 受注残高 | 受注高 | 受注残高 |
| 工作機械関連事業 | 14,095 | 7,509 | 16,583 | 6,204 |
| 輸送機器他関連事業 | 16,977 | 5,238 | 15,970 | 5,699 |
| 合 計 | 31,073 | 12,748 | 32,554 | 11,904 |

- (注) 1. 工作機械関連事業には受注見込生産によるものを含んでおります。
2. 消費税等は含んでおりません。

(3) 販売実績

(単位：百万円未満切捨)

| 事業の種類別セグメントの名称 | 当連結会計年度 | 前連結会計年度 |
|----------------|---------|---------|
| | 販売高 | 販売高 |
| 工作機械関連事業 | 12,791 | 19,336 |
| 輸送機器他関連事業 | 17,439 | 15,473 |
| 合 計 | 30,230 | 34,810 |

- (注) 消費税等は含んでおりません。

決算発表参考資料

平成15年3月期 決算発表参考資料

(連 結)

平成15年5月22日
(6218)エンシユウ株式会社

業績と次期予想

(1)連結経営成績及び主な指標

(金額単位:百万円)

| 期 別 | 平成13年3月期 (133 期) | 平成14年3月期 (134 期) | 平成15年3月期 (135 期) | 平成15年9月期 (136中間期予想) | 平成16年3月期 (136期予想) |
|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|------------------------|----------------------|
| 売 上 高 (対前期比) | 32,058 (2.2%) | 34,810 (8.6%) | 30,230 (△13.2%) | 16,000 (△5.5%) | 30,500 (0.9%) |
| 営 業 損 益 (対前期比) | △784 (-) | 272 (-) | 557 (104.8%) | 450 (△25.1%) | 820 (47.2%) |
| 経 常 損 益 (対前期比) | △802 (-) | 55 (-) | 161 (189.0%) | 200 (△22.8%) | 400 (148.4%) |
| 当 期 純 損 益 (対前期比) | △772 (-) | 11 (-) | 103 (796.8%) | 50 (△74.1%) | 200 (94.2%) |
| 1株当り当期純損益(円) | △16.15 | 0.24 | 2.16 | 1.05 | 4.19 |
| 株 主 資 本 利 益 率 (%) | △17.7 | 0.2 | 1.8 | 0.9 | 3.4 |
| 総 資 本 経 常 利 益 率 (%) | △2.5 | 0.1 | 0.5 | — | — |
| 売 上 高 経 常 利 益 率 (%) | △2.5 | 0.2 | 0.5 | 1.3 | 1.3 |
| 総 資 産 額 | 38,295 | 36,417 | 34,213 | — | — |
| 株 主 資 本 | 5,560 | 5,585 | 5,739 | 5,789 | 5,939 |
| 株 主 資 本 比 率 (%) | 14.5 | 15.3 | 16.8 | — | — |
| 1株当り株主資本(円) | 116.29 | 116.84 | 120.18 | 121.23 | 124.37 |
| 株 価 収 益 率 (倍) | — | 425.00 | 41.67 | — | — |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | △1,211 | 1,351 | 2,877 | — | — |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △1,628 | △1,095 | △1,223 | — | — |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | 2,725 | △278 | △1,370 | — | — |
| 現金及び現金同等物 | 1,169 | 1,220 | 1,490 | — | — |
| 設 備 投 資 額 | 1,628 | 1,214 | 1,138 | 500 | 1,000 |
| 減価償却費(有形固定資産) | 1,279 | 1,270 | 1,236 | 600 | 1,250 |
| 従 業 員 数 | 886 | 847 | 818 | — | — |

(*)連結の範囲

連結子会社 2 社

ENSHU (USA) 米国・イリノイ州

ENSHU GmbH ドイツ・ランゲン(フランクフルト郊外)

持分法適用会社 1 社

遠州建設株式会社 静岡県浜松市

(*)参考 過去最高額

| | | |
|---------|-----------------|------------|
| 連結売上高 | 平成10年3月期 (130期) | 37,064 百万円 |
| 連結営業利益 | 〃 | 1,419 〃 |
| 連結経常利益 | 〃 | 1,149 〃 |
| 連結当期純利益 | 〃 | 1,794 〃 |

連結売上高は平成12年3月期以来の減収となりました。

決算発表参考資料

(2) 事業の種類別セグメントの状況

売上高

(金額単位:百万円)

| 期 別 | 平成13年3月期 (133期) | 平成14年3月期 (134期) | 平成15年3月期 (135期) | 平成15年9月期 (136中間期予想) | 平成16年3月期 (136期予想) |
|---------------------|--------------------|--------------------|--------------------|------------------------|----------------------|
| 工作機械関連事業 (対前期比) | 15,645 (14.2%) | 19,336 (23.6%) | 12,791 (△33.9%) | 8,100 (5.8%) | 15,500 (21.2%) |
| 輸送機器他関連事業 (対前期比) | 16,412 (△7.0%) | 15,473 (△5.7%) | 17,439 (12.7%) | 7,900 (△14.9%) | 15,000 (△14.0%) |
| 連 結 | 32,058 | 34,810 | 30,230 | 16,000 | 30,500 |

営業損益

(金額単位:百万円)

| 期 別 | 平成13年3月期 (133期) | 平成14年3月期 (134期) | 平成15年3月期 (135期) | 平成15年9月期 (136中間期予想) | 平成16年3月期 (136期予想) |
|---------------------|--------------------|--------------------|--------------------|------------------------|----------------------|
| 工作機械関連事業 (対前期比) | △995 (-) | 14 (-) | 71 (390.2%) | 260 (△14.5%) | 550 (674.6%) |
| 輸送機器他関連事業 (対前期比) | 293 (△30.7%) | 283 (△3.4%) | 521 (83.6%) | 190 (△36.7%) | 270 (△48.2%) |
| 消 去 又 は 全 社 | △82 | △25 | △35 | - | - |
| 連 結 | △784 | 272 | 557 | 450 | 820 |

(*) 各区分の主な製品

工作機械関連事業
フレキシブルトランスファーマシン&ライン、各種専用機、マシニングセンタ、
NCフライス盤、
輸送機器他関連事業
二輪車用エンジン、雪上車、ゴルフカー及びバギー車の部品加工、船舶用
エンジンの加工組立、自動車用部品の加工

(3) 経営成績の概要

工作機械関連事業部門においては、当社の強みであるシステム商品を中心に積極的な営業活動を展開し、自動車業界を中心に拡販に努めましたが、受注環境が厳しく、当部門の売上高は前期比33.9%の減少となりました。

輸送機器他関連事業部門においては、バギー車用エンジン部品及び二輪車用エンジン部品の生産が増加し、当部門の売上高は前期比12.7%の増加となりました。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は前期比13.2%の減少となりました。

損益面におきましては、原価低減活動の浸透、また海外子会社の在庫削減による効果等もあり、連結経常利益は161百万円と増益となりました。